スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県 府中町

自 治 体 名 ： 広島県府中町
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 082-286-3271

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	10.41 ㎢
人口 （R7.2）	52,067 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数 （R6.5.1）	1,224 人
部活動数	37 部活 （うち運動部活動25）
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和７年度末までの方針策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

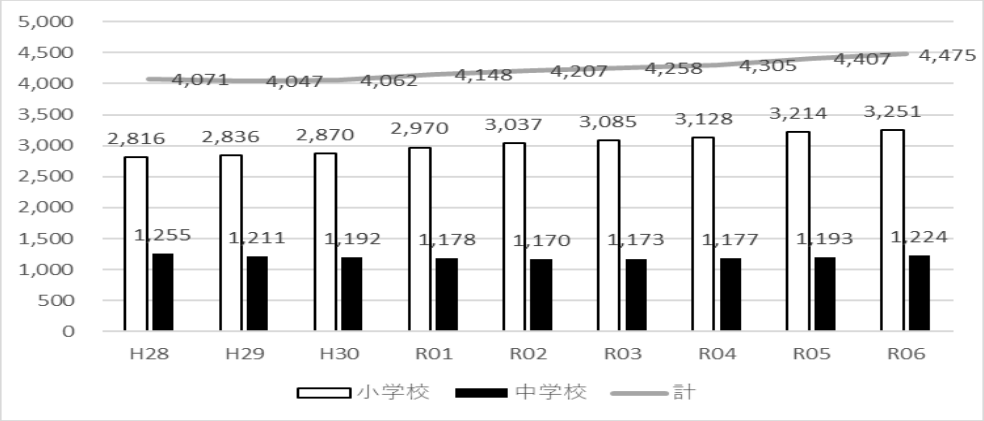
本町は、昭和62年から現在に至るまで人口５万人台を維持している。町内には小学校５校、中学校２校の計７校の学校があり、令和６年５月１日現在の児童生徒数は4,475名（小学校3,251名、中学校1,224名）となっている。

両中学校には、それぞれ12及び13の運動部活動があり、単独によりチームを編成できないといった状況はない。

部活動の地域連携及び地域移行の取組として、令和５年度から、総括アドバイザーの配置及び部活動指導員の配置を進めるとともに、令和６年度からは、両中学校陸上部（一中学校長距離を除く）の休日における練習を地域スポーツクラブへ移行するモデル事業を実施している。

今後、本モデル事業の成果と課題や地域の実態を踏まえ、生徒、教職員、保護者、地域の方々と合意形成を図りながら取組を進めていくことが必要である。

府中町立小中学校の児童生徒数の推移

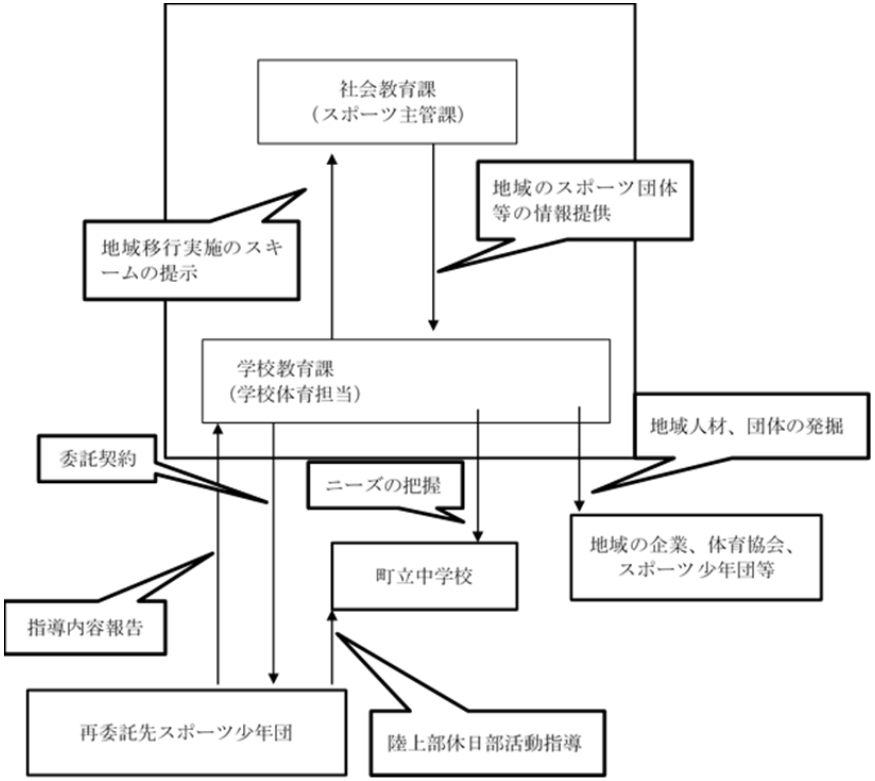


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校教育課・・・学校部活動の地域連携・地域移行に係る学校との調整・連携等の窓口

・社会教育課・・・地域のスポーツ・文化に係る各種団体のとの窓口、環境整備

年間の事業スケジュール

時期	内容
６月	第１回検討委員会の開催 第２回検討委員会の開催 第１回教育職求人説明会
７月	第３回検討委員会の開催
９月	モデル事業に係る保護者通知
10月	モデル事業開始 第２回教育職求人説明会 県内先進地視察
11月	第４回検討委員会 町内学校における指導者研修会の開催（ソフトテニス） 町内学校における指導者研修会の開催（バスケットボール）
12月	町内学校における指導者研修会の開催（ソフトテニス） 町内学校における指導者研修会の開催（バスケットボール） 第３回教育職求人説明会
２月	第４回教育職求人説明会 県外先進地視察（２県２市）
３月	第５回検討委員会の開催

※その他、総括コーディネーターが、学校運営協議会、各種スポーツ団体等と連携し、部活動の地域連携及び地域移行に係る周知活動を実施。

2.実証内容と成果

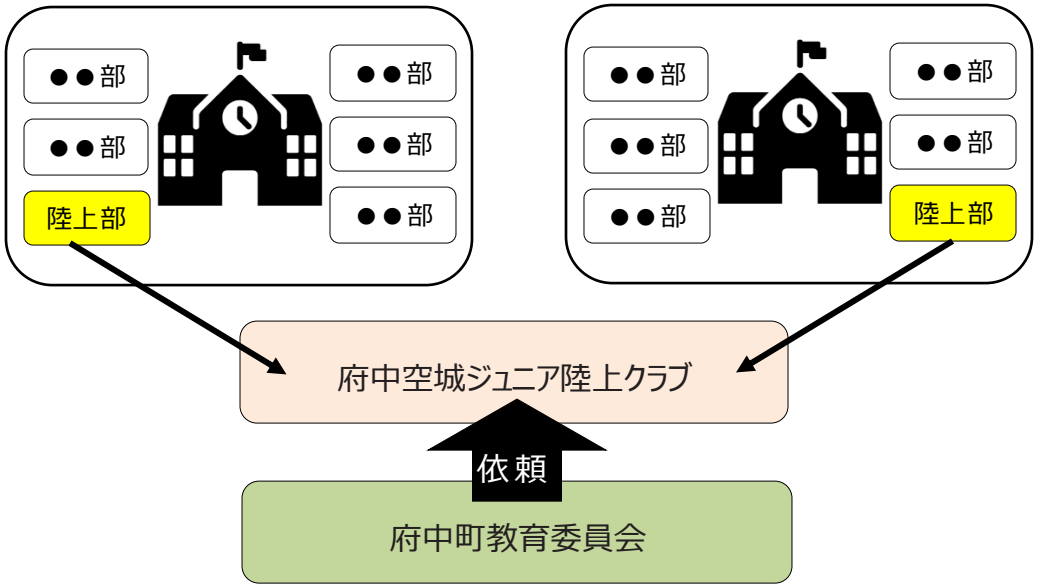
スポーツ庁

主な取組例

●地域スポーツクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技 （一中学校長距離除く）
運営団体名	府中空城ジュニア陸上クラブ
期間と日数	令和６年10月５日（土） ～ 令和７年２月24日（祝）
指導者の主な属性	クラブ所属指導者
活動場所	町内中学校及び近隣スポーツ施設
主な移動手段	徒歩及び公共交通機関
１人あたりの参加会費等（年額）	０円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

・統括責任者　１名

役割：当該クラブの運営等に関わる責任者

・事務局　１名（統括責任者が兼ねる。）

役割：当該クラブの事務的業務、練習場所の確保、指導者との連携、学校、保護者との連絡連携等コーディネーター業務も行う。

・指導者　４名

役割：中学校部員に対し競技技術の指導、安全上の管理を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・休日の練習をスポーツ少年団登録団体である「府中空城ジュニア陸上クラブ（以下、「委託団体」という。）」に委託するモデル事業を行った。

・対象は府中中学校短距離、府中緑ヶ丘中学校短距離・長距離とした。（府中中学校の長距離においては独自での活動を希望したため、通常通りの学校部活動を維持した。）

・拠点校モデルとし、２校の生徒を１か所に集め、合同での活動を実施した

取組の成果

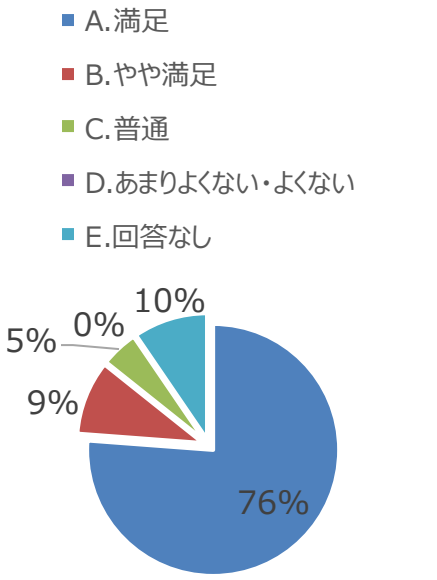
・参加した中学生を対象としたアンケート結果では、76%の生徒が「指導に満足」と回答した。

・学校施設を使用する際の他部活動とのグランド使用に係る調整や出欠席の連絡を総括コーディネーターが行った。当該コーディネーターが部活動指導員と兼務していることもあり、学校側と連携がとりやすい環境にあったため、これらの動きは比較的スムーズに行えた。

・指導の充実に伴い、生徒が取り組む競技種目数が増加した。これまで取り組んでいなかった円盤投げを新たに導入し、4名の生徒が当該競技を始めた。

・長距離において課題であった練習計画の作成について、指導者が丁寧に指導した。それにより、生徒自身が学びながら自分たちで計画を立てられるようになり、平日の練習内容も充実させることができた。

アンケート結果
「スタッフの指導はどうでしたか？」



コーディネーターの具体的な動きの実績

・モデル事業への取組に際し、保護者会で説明文書を配布するとともに説明した。(年２回〔4月、9月〕)

・出欠席連絡、練習場所の確保、練習場所等の伝達や、学校及び保護者との連携を行った。

今後の課題と対応方針

・学校施設のよりよい利用の在り方について、学校との更なる連携が必要である。

・緊急対応時における研修の充実が求められる。(AEDの場所の把握、災害時の避難など)

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

＜指導者の質の保証＞

県主催の「公立中学校の運動部活動の地域連携・地域移行に係る指導者研修会（ソフトテニス・バスケットボール）」を町内中学校で全４回開催した。

ソフトテニスでは、NTT西日本ブルーグランツの監督及び選手の皆様を指導者として、両中学校の男女ソフトテニス部の生徒の指導を通してコーチングスキルを学んだ。

バスケットボールでは、広島ドラゴンフライズスクールコーチを指導者として、府中中学校の男女バスケットボール部の生徒の指導を通してコーチングスキルを学んだ。

＜指導者の量の確保＞

府中町教育職員求人説明会を年４回実施した。部活動指導等に興味を有する方が７名参加し、部活動の地域連携及び地域移行を進める上での一つの課題である指導者確保の取組の一つとなった。

指導者研修の実績

＜開催日＞　令和６年11月30日（土）9:30～11:30
令和６年11月23日（土）9:30～11:30
令和６年12月 ７日（土）9:30～11:30
令和６年12月21日（土）9:30～11:30

受講者の声

今回の部活動指導員のコーチングスキル向上を目的とした講習は、素晴らしい取組だと感じました。東京、大阪、福岡などの大都市では既に今回のような取り組みを継続的に行っているので、ぜひ広島でも継続していただき、最新のコーチングを学び生徒に還元していきたいです。

また、今後の取り組みの候補に入れていただきたいのが、メンタルケアや動機付けの重要性についてです。部活動指導員は教員免許を持っていないため、代わりに子供に接するための最低限の知識やスキルを習得する必要があると感じています。技術面のみを中心にコーチングすると、様々な事故が起こることを危惧しています。部活動の地域移行は大きな地域課題の一つだと考えています。全面的にご協力させていただきます。

今後の課題と対応方針

指導者の質や量の確保のために、今後も、県主催の「公立中学校の運動部活動の地域連携・地域移行に係る指導者研修会」を積極的に町内で開催するとともに、町独自の研修会を開催するなど、取組を継続及び進化させていく必要がある。

スポーツ及び文化活動に係る中学生への指導に興味を有する人材を確保するため、部活動の地域連携及び地域移行に係る周知活動をさらに進めていく必要がある。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

総括コーディネーターを中心として、関係団体や分野との連携強化を図った。

本町では、令和５年10月から総括コーディネーターを配置し、町内校長会における周知や検討委員会への参加、体育協会への説明、地元企業との連携などの取組を進めた。

令和６年度においても、地元企業や総合型地域スポーツクラブ、町内公民館、学校運営協議会との連携を図るとともに、県内外の先進地を視察などの取組を進めた。また、両中学校の部活動顧問や部活動指導員との面談を実施した。

取組の成果

総括コーディネーターによる関係団体や分野との連携を通して、部活動の連携や地域移行に係る地域への周知が少しずつ進んでいる。

また、地元企業等からの寄付の申し出（現時点での寄付の授与はできていない。）があるなど、企業との連携も進みつつある。

学校運営協議会の委員等との協議を通して、部活動地域移行に係る地域の方々の想い等を把握する機会となった。

現に部活動を指導していただいている部活動指導員の想い等を聞くことを通して、今後の部活動の在り方に係る参考とすることができた。

４月	部活動指導員との面談
	両中学校部活動総会への参加
	スポーツ推進協議会での説明
５月	部活動指導員との面談
	地元企業との連携
	公民館との連携
	総合型地域スポーツクラブとの連携
６月	県研修会への参加
９月	県教育委員会ヒアリングへの対応
10月	県内先進地視察
12月	部活動指導員との面談
	県研修への参加
２月	他県先進地視察
	学校運営協議会との協議

今後の課題と対応方針

部活動の地域移行を進めていくためには、生徒、教職員、保護者、地域の方々等と合意形成を図っていくことが重要である。また、それと同時に国や県の動向を踏まえたバランスを図ることも重要である。今後は、座談会等の開催やアンケート実施等を踏まえ、実態把握をさらに進めるとともに、国や県の動向を踏まえ、取組を進めていく必要がある。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

部活動の地域移行について広く周知するために、町広報誌に部活動指導員を紹介するなどの広報活動を開始した。

公民館職員、中学校運営協議会委員やPTA等への地域展開の現状を説明した。

取組の成果

公民館については、今後の具体的な取組について連携することはできていないが、部活動の地域移行に係る国の動向等を説明し、将来的な連携の在り方についてのイメージを共有した。公民館側からも、指導者や会場使用等について前向きな回答を得るなど、今後の方向性について共通理解を図ることできた。

中学校関係者側にも総括コーディネーターの役割等を紹介し、適宜、総括コーディネーターから現状の説明を行った。今後も進捗状況を定期的に共有できる会（部活動の地域移行に係る連絡会）といった形に発展させていきたい。

令和５年度、町体育協会、町スポーツ推進委員に説明した。現時点において令和８年度以降の具体的な方向性を示すことができていいため、中学校の地域移行に向けた具体的な協力依頼には至っていない。

教育委員会HPや広報ふちゅうへの部活動指導員の紹介ページ掲載

部活動指導員・外部指導者紹介

町内の中学校で部活動の指導を行っていただいている地域の方にインタビューを行いました。

掲載内容の詳細は以下のQRコードから

出典：府中町教育委員会ホームページ

今後の課題と対応方針

現時点においては、部活動の地域移行に向けた令和８年度以降の方向性が定まっていないため、関係各所に具体的な協力依頼を求めることができていない。マスコミ報道等を通じて、部活動の地域移行に係る内容を知っておられる地域の方や団体もおられるが、本町における課題とは捉えられていない方も多い。

部活動の地域移行の意義や目的を明確にするとともに、具体的な取組等を基に関係団体等に丁寧に周知していく必要がある。

また、部活動の地域移行に係る国や他自治体の動きも併せて周知し、本町における今後の部活動の在り方について、地域とともに検討する場を設定するなどの取組も求められる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

【拠点場所方式の検討】

今後の他競技における部活動の地域移行も踏まえ、学校施設以外の場での活動を行うことを通して、生徒の移動方法の検討や練習内容の充実に係る取組を進めた。

現在、委託団体の中学校施設における活動は、グランドのみの利用許可（２校の中学校の生徒が所属しているため他校生徒が校舎内に入ることは学校管理上困難と判断）としている。そのため、悪天候時の活動場所がなかった。

上記の状況を踏まえ、悪天候が予想される際は、練習場所を近隣施設へ変更し活動を行った。

指導者が事前に室内でのプログラムを検討したことで、効果的な活動を実施できた。

活動の詳細

参加人数	23 人	指導者数	4 人
属性	コンディショニング、筋力トレーニング等		
具体的な内容	・ストレッチや体の使い方など、コンディショニングを中心とした指導 ・けがの予防、体づくりなど、平素学ぶことの少ない項目についての指導 ・陸上競技に係る技術指導		
子供の声	・雪が降っていたので、（室内で）寒くなく練習できてよかった。楽しかった。 ・ポイントがわかってよかった。またやりたい。 ・初めて南公民館に来た。こんなところにあるなんて知らなかった。 ・場所がわからなかったから、A中学校の人と待ち合わせしてきた(Ｂ中学校生徒)。		
関係者の声	・事前に天気予報（降雪）で判断したが、生徒への連絡が２、３日前となり、参加者全員に連絡が行き届いているのか不安があった。 ・室内練習のため、学校で使用している体育館シューズを持って帰るよう（学校側から）伝えてもらった。全員忘れずに持ってくることができた。 ・生徒の移動に関しては徒歩圏内であるため、保護者の負担なく行えた。 ・場所の確保が大変だった。今回は使用できたが、予約できない時もある。天気予報を見て場所を捜す時間も労力である。 ・施設の空き状況に合わせて練習時間を変更せざるを得ず、当初の練習予定と変更することになった。		
運営経費	施設使用料は本実証事業で支出した。（個人負担にすると一人当たり約130円/回）		

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組事項

生徒にとって充実した活動となるよう、競技経験のない教員による指導から、競技経験豊富な地域の指導者へと移行する。

取組の成果

これまで競技経験のない教員が指導してきた活動から、当該競技を専門に取り組む競技団体に指導を任せたことで、競技経験がある指導者による専門的な指導が可能になった。

競技のルールや安全面の指導、大会前の取組などの細やかな技術指導を受けることができるようになり、生徒の安心・安全にもつながった。

両中学校の部活動が合同で練習するメリットの一つとして、「専門的な練習ができる」という点を挙げる生徒もいるなど、一定の成果がみられた。

平日の練習とは違う環境で行うことにより、生徒の中にも緊張感が生まれ、週末の活動に競技力向上とともに集中力アップといった付加価値が加わった。

今後の課題と対応方針

＜研修会の開催＞

地域指導者は、当該競技に係る技術面の知識や経験はあるが、教育経験者ではないため、中学生への教育的指導という面での知識や技術は乏しい部分がある。そのため、今後、指導者が安心して参加した中学生へ指導を行っていただくためにも、指導者を対象とした研修会を開催することなどの取組を進めることが必要である。

＜安全面の管理、指導＞

参加する生徒が在籍校でない学校施設を使用する場合、当該練習場所に対する知識が少ないため安全に対する認識が薄くなる様子がみられた。事故の予防のためには、参加する中学生はもとより、指導者の安全面の管理指導が求められる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組の成果

安全面に考慮し、中学校生徒、団体スタッフともに全員が「スポーツ安全保険」に加入した。保険加入費用は実証事業内で支出した。

また、委託団体へ安全に対する取組を説明、安全体制の構築を依頼した。

【スポーツクラブの取組】

・活動開始のミーティング時に生徒の出欠席、参加人数の確認を行う。

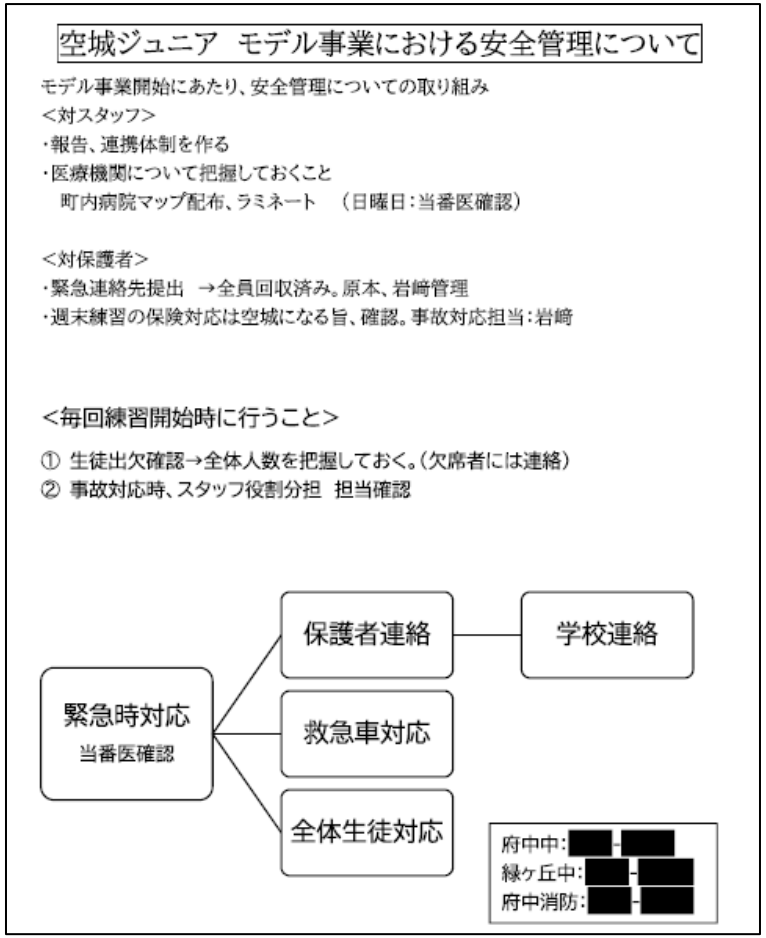
・スタッフ内で緊急対応の役割を分担するとともに、救急箱等は毎練習準備、持参した。

・緊急時の対応ができなくなる恐れがあるため、スタッフが２人以上揃わない場合は練習を中止することとした。

・本活動時に、病院を受診するケースが２件発生したが、競技の指導に起因するものではなかった。

今後の課題と対応方針

活動していくうえで、安全管理は最重要項目である。委託団体における活動時は学校安全保険の対象とならないため、参加生徒全員がその他の保険への加入することが必須となる。加入には年間1人あたり約1,000円の費用が発生する。地域移行を進めるにあたり、当該費用は必要経費であることを生徒や保護者に理解していただく必要がある。



出典：委託団体付資料

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

・主な練習場所は学校施設（グランド）とした。基本的には、町内２校の中学校を交互に使用した。

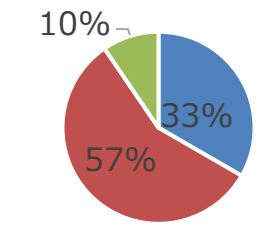
・学校施設利用に係る調整は各学校の担当教員と総括コーディネーターが行った。

取組の成果

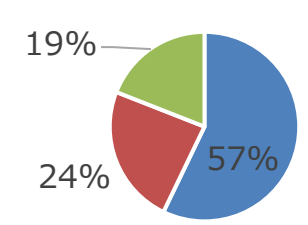
・参加した中学生20名を対象としたアンケート結果では、回答者の57%が「活動場所が毎週変更することに関して構わない」と回答し、33%が「自分の学校での活動を希望する (内１名、自校での活動しか練習に参加できない生徒あり）」と回答した。

・連絡方法については回答者の57%が「連絡アプリが使えたらよい」との回答であった。

【活動場所が毎週変更することについて】



【連絡方法について】



今後の課題と対応方針

学校施設の利用に係る調整を担当教員と総括コーディネーターが連携し行ったが、外部からは貸出管理の方法が不明確な点が多く、予定と当日の状況が異なることもあった。

今後、スポーツクラブが学校施設や学校設備等を使用する際の学校との連携の在り方等は検討課題である。

・雨天時等、活動場所を急遽変更しなくてはならない場合、それらに対応する拠点等を設けることや連絡用アプリを導入することなどについて検討する必要がある。

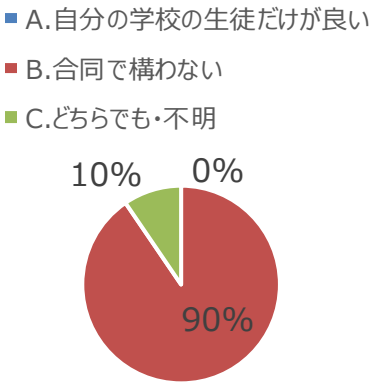
2.実証内容と成果①

スポーツ庁

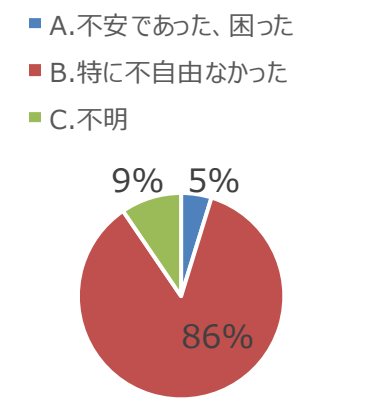
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

【他校の生徒と一緒に活動するのはどうでしたか】



【週末、学校教員がいないことについていかがでしたか】



●参加者の声

中学2年生

２校一緒に練習することはとても良いです。
人数が増えて練習に活気が出て楽しくなります。
しんどい時もほかの人も頑張っているなと思えます。指導も専門の先生に教えてもらえるので、できない時、一緒に考えてもらえるのがいいです。

保護者１

・送迎の必要や天候等の心配が少ないほうがありがたいです。
・どんな場所でも対応できるようにしてもらいたいので、色々なところで練習してほしいです。
・もう少し早く練習場所と時間が知りたい。

保護者２

・同じ目標に向かう仲間同士、切磋琢磨してほしい。
・いろんな刺激になっていいと思う。
・合同で構わないが、（練習場所が）近いほうがいいです。
・府中町の陸上を共に盛り上げてほしい。

保護者３

・日によって付き添うコーチがどなたなのか、休みや早退、急な何かの（時の）連絡先がはっきりしていると安心です。
・安全上問題がなければ特に問題なしと考えます。
・熱心に指導いただけて感謝しています。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

【モデル事業開始時の保護者への配付資料】

令和６年９月25日

府中中学校陸上部　短距離
府中緑ヶ丘中学校陸上部
保護者の皆様へ

府中空城ジュニア陸上クラブ
会長　竹原　好美

部活動地域移行モデル活動の実施について

平素は当クラブの活動にご理解、ご協力頂きありがとございます。

10月より府中町中学校部活動地域移行のモデル活動を陸上部が取り組むこととなりました。

連携先として、空城ジュニア陸上クラブが実施することとなりました。

つきましては、今後の取り組みについての注意点等を下記に記載しております。ご確認ください。

・土日、祝日の練習を空城陸上クラブのスタッフが行う。平日、長期休暇時は教員が行う。

・大会出場は学校名で出場する。大会時は顧問が引率する。

・練習場所は基本、中学校のグランドで行う。

・活動中に起きたケガ等、保険を利用する際はスポーツ安全保険で対応する。

～お願い～

・部員全員、スポーツ安全保険に加入させていただきます。この費用は府中町が持ちます。

・緊急連絡先を学校に確認することがあります。4 月の時点で学校に提出されたものと変更がある人は教えてください

令和 6 年度の実施です。短い期間ではありますが、色々な角度からのご意見を頂くことがこれからの部活動地域移行の参考になると考えています。

活動を進めていくにあたり、お気づきの点がありましたら教えてください。

今後ともご協力よろしくお願いいたします。

地域移行説明会（自由参加）　担当：[redacted]
10月2日(水)PM7:30～8:00　空城クラブハウス２階

出典：委託団体配付資料

【R06モデル事業終了時のアンケート内容】

令和６年２月

府中町陸上部保護者の皆様へ

府中空城ジュニア陸上クラブ

平素は当クラブの活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。
令和６年10月から土日の部活動を府中町モデル事業として取り組んでまいりました。
つきましては本年度を振り返り、保護者の皆さんからご意見を伺いたいと思います。
当てはまる回答に〇をお願いします。（　）には補足がありましたら記入してください。
名前の記入は任意とします。
お忙しい中申し訳ありませんが、2月19日(水)までに[redacted]まで提出ください。ご協力よろしくお願いします。

回答者：府中中・府中緑ヶ丘中　　年　　＊任意　生徒氏名（　　）

① 活動場所が毎週変更することについて、いかがでしたか？
　自分の学校での活動がよい　・　今のままで構わない
　（　　）
② 他校の生徒と一緒に活動するのはどうでしたか？
　自分の学校の生徒だけがよい　・　合同で構わない
　（　　）
③ 連絡方法について
　連絡アプリが使えたらよい　・　今のままでよい（紙で予定表を配布）
　（　　）
④ スタッフについて。指導はどうでしたか？
　満足　・　やや満足　・　普通　・　あまりよくない　・　よくない
　（　　）
⑤ 週末、学校教員がいないことについていかがでしたか？
　不安であった、困った　・　特に不自由なかった
　（　　）
⑥ その他、改善点などお気づきの事がありましたら教えてください
　（　　）

ご協力ありがとうございました。

出典：委託団体配付資料

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【新種目の円盤投げに取り組む生徒の様子】



【短距離スタート練習の様子】



【近隣スポーツ施設における練習後の集合写真】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年	令和６年		令和７年	令和８年
学校現場との調整	受け皿団体や指導者の選定	生徒、保護者への説明	地域クラブ活動モデル事業の開始	地域クラブ活動モデル事業の継続	今後の部活動の在り方に関する検討

記載例»»

●ステークホルダー

府中町教育委員会

●経過

・部活動指導員の配置

・「府中町立中学校における学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた方針」の策定

・総括コーディネーターの配置

・令和６年度からの地域スポーツクラブへの移行に向けたモデル事業の準備

●実施にあたって生じた課題

・地域スポーツ活動の選定や連携の在り方等について

●実施内容、工夫した点 等

・モデル事業としての実施のため、生徒や学校、地域からの信頼も厚い伝統ある地域スポーツクラブでの実施を検討

記載例»»

●ステークホルダー

府中町教育委員会

●経過

・町内２中学校の陸上部（一中学校の長距離除く）の休日の練習を地域スポーツクラブへ移行するモデル事業開始（１年目）

・総括コーディネーターの配置

・教育委員会及び町内２中学校の校長による協議会の開催

●実施にあたって生じた課題

・令和８年度以降の部活動の在り方についての検討

●実施内容、工夫した点 等

・保護者への対象となる部活動へ所属する保護者への説明

・町内各所への周知活動

記載例»»

●ステークホルダー

府中町教育委員会

●経過

・町内２中学校の陸上部（一中学校の長距離除く）の休日の練習を地域スポーツクラブへ移行するモデル事業継続（２年目）

・総括コーディネーターの配置

・教育委員会及び町内２中学校の校長による協議会の開催（令和８年度以降の部活動の在り方に関する検討）

●実施にあたって生じた課題

・生徒数が増加している本町の特徴や県内他市町における取組とのバランス

●実施内容、工夫した点 等

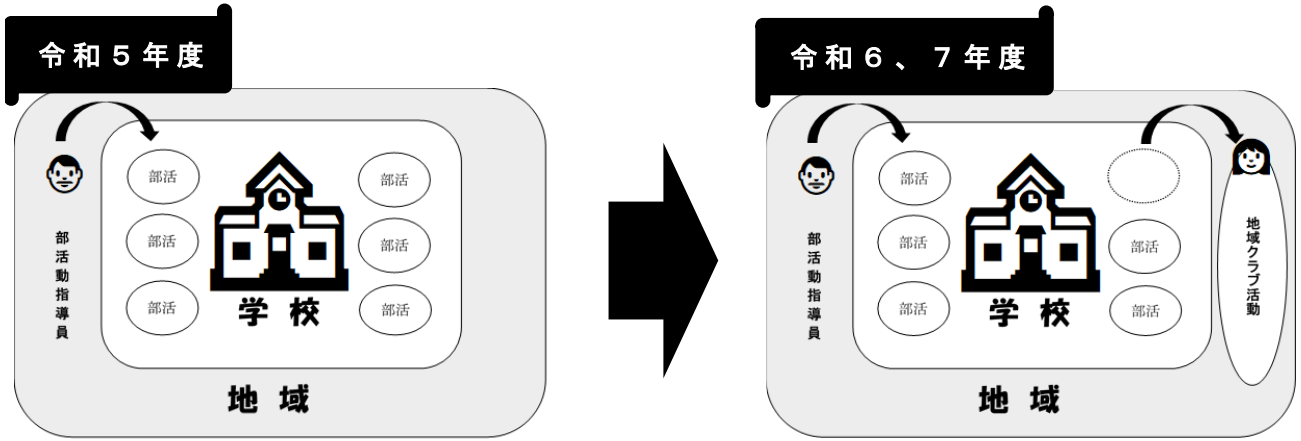
・総括コーディネーターによる町内２中学校長や学校運営協議会メンバー等へのヒアリング実施

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

府中町立学校における地域移行に係る改革推進期間（令和５年度～令和７年度の３年間）



目的	・府中町立中学校の生徒の将来にわたるスポーツ・文化芸術活動の機会を確保する。 ・府中町立中学校の教職員の学校における働き方改革を進める。

令和５年度	令和６年度	令和７年度
地域移行に向けた準備期	地域移行試行期Ⅰ	地域移行試行期Ⅱ
・部活動指導員の配置 ・コーディネーターの配置 ・検討委員会の開催 ・地域への周知 ・地域の団体及び人材の掘り起こし ・地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施に向けた取組 ・各種規定等の整備	・部活動指導員の継続配置 ・地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施（第Ⅰ期） ・検討委員会の開催 ・地域への周知 ・地域の団体及び人材の掘り起こし ・協議会の設置準備 ・各種規定等の整備	・部活動指導員の増員検討 ・地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施（第Ⅱ期） ・検討委員会の開催 ・モデル事業の成果と課題のまとめ ・協議会の設置・開催 ・令和８年度以降の取組等についての検討